

4. 考察と結論

本年度の調査結果から、20歳前後の若者では、結婚や子どもを持つこと、子育てへの参加意欲が男女ともに、高いことが明らかとなった。

男性も女性も子どもを持つことについては多くの者が肯定的で、将来子どもを欲しいと考えている。育児参加についても、男女差があるものの多くの者は、主体的にこれをおこなう意欲はある。

結婚や子どもを持つことについては、できちゃった結婚や未婚のまま子どもを持つといった事柄には保守的な意見を持つ者が多い一方、「子どもを持たない」という選択肢を受容するといった傾向があることから、20歳前後の若者は、結婚や子を持つ「持ち方」については几帳面であり「持つかどうか」については曖昧な意見を持っていると言えよう。また、育児資源としての男性の活用（「子どもが小さいときに父親が育児休業制度を利用すること」）には積極的であるが、だからといって、女性が育児から完全に自由になることを意図しているわけではない。自由記述のコメントにあるように、「子どもが小さいときには母親が面倒を見るべきである」といった観念が広く行き渡っていることもこういった結果に結びついていると思われる。

つまり、子を持つかどうかにたいしてのこだわりはあまりないが、子を持つならば規範をある程度保ちつつ行うことを良しとしている。また、男性の育児については積極的であるが、同時に「幼い頃の母親による保育」に対する規範は強く残っている。

また就業後の育児休業制度の利用希望についても男女ともに積極的である。しかしながら現実には男性が育児休業制度を利用することはまれである。実際に働く段階になると様々な理由で利用が困難なのが現状であろう。

特に男性においては、その後の就業経験や結婚生活の中で、育児参加への意欲が低下していく可能性が指摘された。つまり、20代から30代にかけて、男性の育児参加意欲を低下させる要因を突き止めることで、少子化対策へ男性側からの有効なアプローチ手段を発見できる可能性がある。

インタビュー調査を行った30代の男性の回答によると、欲しい子どもの数や育児への参加意欲は、アンケート調査対象者男性よりも低下している。質的であり、サンプルも限られているインタビュー調査の結果と、量的で多くのサンプルの平均的回答であるアンケート調査の結果を単純に比較することはできないが、10年の世代差や就業経験などの様々な要因によって、男性の育児への意欲が低下していく可能性があることが指摘される。

しかしながら、20代から30代にかけての変化は、本研究においては、世代効果として現れたものであるのか、あるいは時代効果であるのか、確定はできない。今回大量観察調査の対象となった20歳前後の人々（1980～1984年生まれが

中心)の日常生活へのコミットメント具合は、その上の世代の人々の同じ年頃の頃と比べると異なっている点がある。例えば、男子学生であっても自炊、昼の弁当作りといった事柄を行うことは特別でなくなりつつあるようである(インタビュー調査から)。こうした「日常生活」に対する積極的な関与が強いのは、今回大量観察の対象者達が、男子も家庭科を受けるようなカリキュラムになっていることも関係しているのかもしれない。いずれにせよ、今の20歳前後の若者の子育て・暮らし方に関するより深い分析が重要となろう。

このため、次年度以降の調査では、30歳前後の就労経験のある男性に加えて、20歳前後の学生も対象にインタビュー調査を行い、生活意識等、育児参加意欲に関連すると思われる世代の特徴についても、検討する必要があると思われる。

今回確認された若者の「子どもが欲しい」「子どもがかわいい」「子どもを主体的に育てたい」「子育てのために諸制度を利用したい」という希望を尊重し、かなえられるようにする方策を考えることは極めて重要であろう。

また、かれらの子育てに対する高い意欲は、「子持ち・子育てに関する新しい行動を行う世代」の誕生の表れなのかどうか、長期的に観察していく必要がある。

子どもの価値観と出産・育児に関する調査

調査の目的

本調査は、人々が子どものことをどのように感じているかを知るためのものです。この度、早稲田大学学生のみなさんを対象に調査を行うことにいたしました。これから「あなたが子供たちのことをどのように感じているか」「あなたの人生において子供たちが果たす役割はどのようなものであると考えているか」を中心として質問をさせていただきます。任意の調査です。是非ともご協力ください。

いただきましたご回答は、統計的に処理し、個人のお名前が出るようなことは絶対にありません。本調査が成功するよう、それぞれの質問に可能な限り正直にオープンにご回答いただけますようお願いいたします。

なおこの調査は、厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「男性の子どもの価値観と出産・育児に関する研究」の一環として、厚生労働省の研究助成を受けて実施するものです。ご不明の点は、回収場所にいる調査員もしくは下記の問い合わせ先までご連絡ください。

ご記入にあたって

1. 黒または青のペンをご利用の上、必ずご本人がお答えください。
2. 回答は、特にことわりのないかぎり、もっともよくあてはまるものを1つ選び、その番号の右側の口をチェックしてください。なお「その他」を選択した場合は、その内容を具体的に書いてください。
3. 質問番号順にお答えください。矢印(→)では指示に従って進んでください。

調査票の回収について(9:00-16:30, 1階学部学科掲示板の前(119号室の前))

調査票は、1階学部学科掲示板の前(119号室の前)にて回収を行っておりますので、そちらにお持ちください。

回収は、9:00から16:30まで行います。回答して下さった方ご本人に提出をお願いいたします。

その際、学生証の提示をお願いいたしますが、これは本調査が「早稲田大学の学生」を対象としているためですのでなにとぞご協力ください。

なお、調査票ご提出の際には、正しくご記入いただいているか調査員が確認いたします。記入漏れ等があった際にはその場で書き加えていただくことがあります。

回収時間内(9:00~16:30)に調査票をご提出下さった方には、薄謝(スターバックスのプリペイドカード: コアカード 500円分)を進呈させていただきます。なお、回答者ご本人にご提出いただけますようお願いいたします。また複数の調査票を一人の方からご提出いただいた場合も、プリペイドカードは1枚しかお渡しいたしませんのでご了承ください。プリペイドカードは調査票と引き換えにお渡しする予定ですが、万一足りなくなった場合は、郵送でお送りいたします。

是非とも本調査にご協力ください。

調査実施主体:

早稲田大学助手 辻明子

清泉女学院大学助手 高崎文子

お問い合わせ先:

早稲田大学人間科学部 辻明子

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

TEL 042(947)***

調査員記入欄

回収者

回収番号			

入力者

入力確認者

性別 1□女性 47.7 2□男性 52.3

年齢 (20.70 歳)

学年 (学部 97.2/大学院修士 1.7/大学院博士 0.5 /N.A. 0.6 2.20 年)

婚姻状態 1□未婚 100.0 2□既婚 - 3□離別 - 4□死別 -

子どもの有無 1□あり - (-) 人 2□なし 100.0

就職活動経験の有無 1□あり 22.1 2□なし 77.6 N.A.0.3

現在の居住地 1□大都市(東京都区部と政令指定都市) 30.3 2□中都市(人口 10 万人以上の市) 57.3
3□小都市(人口 10 万人未満の市) 10.0 4□町村 2.3 N.A.0.1

出身地 1□大都市(東京都区部と政令指定都市) 34.9 2□中都市(人口 10 万人以上の市) 39.0
3□小都市(人口 10 万人未満の市) 12.0 4□町村 13.8 N.A.0.3

両親との同居 1□父のみ同居 0.9 2□母のみ同居 3.8 3□両親とも同居 37.2
4□同居していない 57.4 N.A.0.6

兄弟姉妹の数 (いらっしゃらない場合は、それぞれ 0 を記入してください)

姉 (0.29) 人, 兄 (0.30) 人, 妹 (0.32) 人, 弟 (0.36) 人

通常、次のメディアからどのくらいの頻度で情報を得ていますか。

	毎日	週に数回	ごくまれに	見ない	
テレビ	1□ 77.2	2□ 16.5	3□ 3.7	4□ 2.4	N.A.0.1
新聞	1□ 30.6	2□ 27.6	3□ 26.7	4□ 14.8	N.A.0.3
インターネット	1□ 38.9	2□ 39.9	3□ 18.2	4□ 2.7	N.A.0.4

他の家庭と比べた時、あなたのご家庭の経済状態は以下のどれに相当すると思いますか。

1□普通よりはよい 31.5 2□普通だと思う 58.7 3□普通より悪い 9.7 N.A.0.1

あなたのお母さまの就業経歴について、教えてください。

1□結婚前からずっと勤めを続けてきた 22.9 2□子どもが大きくなってから再就職した 26.6
3□ずっと自営の仕事(農業を含む)や内職を続けてきた 8.4 4□ずっと家事・育児をしてきた 28.8
5□その他 13.2 N.A.0.1

あなたは、中学校を卒業してから今までに、未就学児(0~6歳)と、話したり、遊んだり、面倒をみたりといった経験がありますか。

1□頻繁にある(あった) 11.9 2□たまにある(あった) 42.5 3□ほとんどない 35.8
4□まったくない 9.8

あなたは将来結婚をしたいと考えていますか。

1□はい 82.9 2□いいえ 4.6 3□わからない 12.4 N.A.0.1

あなたは現在交際している異性がありますか。あてはまる番号を一つお答えください。(複数の交際相手がいる場合は、最も親しい異性についてお答えください)

1□配偶者がいる - 2□婚約者がいる 1.0 3□恋人として交際している異性がいる 41.7
4□友人として交際している異性がいる 30.9 5□交際している異性はいない 26.2 N.A.0.1

1. 次に子どもを持つことに関する様々な問題についてのご意見を伺いたと思います。

6	非常にそう思う
5	いづらかそう思う
4	ややそう思う
3	ややそう思わない
2	あまりそう思わない
1	全くそう思わない

このうちのどれがあなたの印象に近いかを教えて下さい。

	非常に そう 思う	まあ そう 思う	やや そう 思う	やや そう 思わ ない	あま りそ う思 わな い	全く そう 思わ ない	
	6	5	4	3	2	1	
(1)子育ては退屈なうんざりする仕事だ。	1.3	4.9	13.6	14.6	39.0	26.7	
(2)年を取って働けなくなったときに援助してもら えることは子どもを持つ十分な理由といえる。	3.7	13.6	26.7	18.8	26.9	10.4	
(3)子どもを育てることはいいことである。	45.5	34.4	14.3	2.2	1.8	1.3	N.A.0.5
(4)愛情を何の遠慮もなく表現できるのは子どもに 対してだけだ。	4.0	13.9	18.9	24.3	25.2	13.7	
(5)子どもがいなかったとすれば多くの夫婦はいま よりもっと幸せだろう。	0.8	1.9	4.5	15.1	41.0	36.6	N.A.0.1
(6)子どもを持つことは成功を目指してがんばる上 での大きな励みになる。	22.8	35.3	25.8	9.0	5.8	1.4	
(7)一族の伝統を絶やさないために子どもを持つこ とは重要だ。	6.8	16.4	28.1	16.9	19.6	12.1	N.A.0.1
(8)子どもを欲しいと思うことは自然なことだ。	37.3	35.9	17.5	5.0	2.7	1.5	
(9)子どもを持つ前に子どもによってもたらされる 不便さについて考えるべきだ。	6.3	17.3	28.4	20.5	20.3	7.3	
(10)身の回りに常に子どもがいる生活は精神的なス トレスになる。	1.9	6.3	27.6	25.4	27.2	11.4	N.A.0.1
(11)家族や友人からのプレッシャーがあるため、子ど もを持つべきかどうかに関する選択の自由はあ まりない。	1.3	2.8	12.0	21.2	33.0	29.5	N.A.0.1
(12)子どもを持つことは人間の果たすべき社会的責 任である。	3.5	9.5	22.6	26.0	21.6	16.6	N.A.0.3
(13)親が子どものために行う努力はすべて、長期的に みれば価値がある。	23.4	38.1	27.0	6.6	3.8	0.9	N.A.0.1
(14)子どもを持つことにより夫婦の結びつきは強ま る。	26.2	41.4	21.6	6.5	2.8	1.2	N.A.0.3
(15)人生の最も大きな目的のひとつは子どもを持つ ことである。	7.3	21.2	25.6	22.1	14.3	9.2	N.A.0.3
(16)女性が本当の意味で大人になるためには子ども を持つことが必要だ。	6.8	12.7	22.5	21.9	20.8	15.3	
(17)子どもが人生で失敗したとすればそれは両親の 責任だ。	3.6	11.4	29.8	24.8	20.2	10.2	

	非常 にそ う思 う	まあ そう 思う	やや そう 思う	やや そう 思わ ない	あま りそ う思 わな い	全く そう 思わ ない	
	6	5	4	3	2	1	
(18)子どもを作ることは結婚の果たすべき最も重要な役割だ.	2.8	10.7	24.2	23.5	26.0	12.8	
(19)子どもがいると行動の自由がなくなる.	6.1	25.3	49.5	10.4	6.1	2.6	
(20)多くの場合、子どものいない人生は味気のないものだ.	6.0	14.7	29.8	24.8	17.6	7.0	
(21)若い夫婦は子どもを作らない限り社会に受け入れられない.	—	2.0	6.0	20.3	34.1	37.3	N.A.0.1
(22)人間は子どもができるのと不道德なことはしなくなる.	1.7	9.5	28.9	20.5	24.3	15.2	
(23)子どもを作るかどうかを決める際には、子どもを養う経済力があるかどうかを最初に考えなければならない.	22.0	32.4	35.8	6.5	2.6	0.8	
(24)多くの人にとっては、子どもを持つのは避けられないことである.	1.7	6.9	17.8	32.4	28.8	12.5	
(25)子どもは親にとっても忠実であり、それこそ、親となる最大の喜びのひとつである.	1.8	11.1	18.9	25.6	26.5	16.1	
(26)子どもの存在は夫婦間に多くのいさかいや問題をもたらす.	1.8	9.6	36.7	26.2	21.0	4.7	
(27)子どものいる者のほうがそうでない者よりも社会の中で尊敬される.	0.6	5.0	19.4	23.4	28.9	22.6	
(28)女性が子どもを欲しがるのは当然のことだ.	13.6	27.0	28.3	15.6	10.7	4.7	N.A.0.1
(29)必要とされている気持ちを味わえるだけでも子どもを作る価値がある.	8.1	20.1	36.1	17.4	13.4	4.7	N.A.0.3
(30)良い親になった者は自分の人生に満足できる.	12.9	34.4	29.0	11.5	9.0	2.9	N.A.0.3
(31)子どものいる家庭が社会にとって望ましいものすべての基礎である.	3.1	8.8	23.3	30.3	22.1	12.4	
(32)子どもを作る前に、自分たちは子どもよりも別のことにお金を使いたいか考えるべきである.	4.2	10.5	29.2	29.7	19.3	7.2	
(33)親となることのいちばんの喜びは、子どもに善悪を教えることができることである.	3.5	9.2	22.6	30.7	21.7	12.3	
(34)人間には一族の名を途絶えさせないために子どもを作る義務がある.	1.8	6.0	19.3	24.4	23.5	24.9	
(35)子どもがいれば、自分が死んだ後も自分の一部が生き残り続けると思うことができる.	7.8	18.2	28.4	15.6	16.6	13.3	N.A.0.1
(36)子どもを持つ最大の喜びは二度と孤独にはならないことだ.	1.0	8.8	18.5	25.3	26.7	19.3	N.A.0.3
(37)子育ては多くの人にとって大きな経済的負担になる.	16.5	32.2	35.7	9.2	4.9	1.3	N.A.0.3
(38)出産制限をすることは自然への干渉であり正しくないことである.	7.5	13.9	24.9	23.8	19.2	10.2	N.A.0.4
(39)子どもができたなら自分の楽しみの多くをあきらめなければならない.	3.5	13.8	39.4	22.8	15.5	5.1	

	非常に そう 思う	まあ そう 思う	やや そう 思う	やや そう 思わ ない	あま りそ う思 わな い	全く そう 思わ ない	
	6	5	4	3	2	1	
(40)人生にとって本当に重要なことは子育ての経験からしか学べない。	1.2	5.1	18.5	27.7	29.2	18.3	
(41)子どもを持つ前に、それにより妻の仕事が妨げられるかどうかを考えるべきだ。	5.8	15.7	39.8	22.5	13.0	3.2	
(42)子どもを授かるのは結婚に対する神の祝福の証である。	2.9	10.4	24.3	19.8	21.0	21.5	N.A.0.1
(43)子どものいる家庭は、現代社会の中で人々がくつろぎと幸福を感じられる唯一の場所である。	2.2	11.5	27.6	29.2	17.8	11.6	N.A.0.1
(44)子どものいない者は真の意味で幸せにはなれない。	0.5	4.6	10.2	19.3	29.5	35.8	
(45)男は子どもを持つてはじめて大人になる。	3.7	10.1	19.2	21.9	23.0	22.1	

2. あなたは次のような考え方やことに対して賛成でしょうか反対でしょうか。

	まった く賛成	どち らか とい えば 賛 成	どち らか とい えば 反 対	まっ たく 反 対	
	1	2	3	4	
(1)未婚のまま子どもを持つこと	9.7	28.0	52.3	9.8	N.A.0.1
(2)結婚しても子どもを持たないこと	31.3	37.6	29.0	2.0	
(3)できちゃった結婚	15.2	37.1	39.3	8.4	
(4)子どもが小さいときに母親が仕事をすること	12.7	28.1	48.6	10.5	N.A.0.1
(5)子どもが小さいときに父親が育児休業制度を利用すること	48.5	42.2	7.7	1.7	

3. 以下は、子供が欲しい理由として一般的にあげられるもののリストです。以下のそれぞれの理由に関して、それはあなたにとって「子供が欲しい」と思う理由として「非常に重要」であるか、「やや重要」であるか、「まったく重要でない」かをお答え下さい。

	非常に重要	やや重要	重要でない	
	1	2	3	
(1)赤ん坊がいると楽しいから	46.7	43.7	9.6	
(2)一族の名前と伝統を守るため	7.9	32.6	59.5	
(3)男の子が欲しいから	21.0	42.2	36.8	
(4)女の子が欲しいから	21.0	43.6	35.3	N.A.0.1
(5)親戚（親も含む）に子供を作れという人がいるから	1.9	14.2	83.6	N.A.0.3
(6)年を取ったときに面倒を見てもらうため	6.0	47.6	46.4	
(7)たくさんの子供を持つことは宗教上の義務だから	1.3	5.1	93.6	
(8)家計を支えるために人手が必要だから	2.7	21.0	76.3	
(9)夫婦関係をより強固にするため	18.0	57.7	24.2	N.A.0.1
(10)今いる子供の遊び相手として	12.0	42.8	45.0	N.A.0.1
(11)子育てが好きだから	45.1	41.3	13.6	
(12)配偶者が子供を欲しいと考えるだろうから	37.1	52.7	10.2	
(13)家に子供がいるのは楽しいから	67.3	28.8	4.0	
(14)子育てをすることで人生や自分自身について学ぶことができるから	61.3	34.7	4.1	
(15)親子の間に育まれる愛情は特別なものであり、それは自分にとって重要なものだから	67.9	28.1	4.0	
(16)財産や知識を分け与える相手が欲しいから	9.7	39.9	50.3	N.A.0.1
(17)少なくともひとりは大人数になるまで生きていられるだろうと安心できるだけの数の子供が欲しいから	5.2	24.6	70.2	

4. 以下は、子どもは欲しくないと考え理由として一般的にあげられるもののリストです。以下のそれぞれに関して、それはあなたにとって「子どもは欲しくない」と考える理由として「非常に重要」であるか、「やや重要」であるか、「まったく重要でない」かをお答え下さい。

	非常に重要	やや重要	重要でない
	1	2	3
(1)子どもを持つと家計が圧迫されるから	28.8	57.9	13.3
(2)配偶者がもう子どもは欲しくないと考えているだろう	31.8	55.0	13.2
(3)子どもが出来ると自分の好きなことをする自由がなくなるから	24.2	55.9	19.9
(4)子どもができるとしなければならないことも増えるし面倒もかかるから	18.8	56.4	24.8
(5)子どもが出来ると配偶者と過ごす時間が減るから	15.0	52.9	32.1
(6)人口過剰問題が心配されるから	2.8	16.2	80.9
(7)子どもを育てることは感情的なストレスになるから	15.3	50.9	33.8
(8)子どもを十分に世話することができなくなる、あるいは子どもに十分な注意を向けることができなくなるから	34.1	49.2	16.6
(9)子どもができた場合には夫婦間に問題又はストレスが生じるだろうから	16.5	54.2	29.3

5. あなたの所属する社会においては、どれぐらいの数の子どもがいる場合に「もう子どもは要らない」と考えるのが普通だと思われませんか。

2574.55人

6. 身の回りに子どもはひとりも作らないと考えている夫婦、カップルはいますか。

1□はい 27.1 2□いいえ 72.5 N.A.0.4

7. あなたの身の回りの人々が子どもを欲しいと考える理由はどのようなものだと思いますか。

8. あなたは将来子どもが欲しいですか。

1□はい 83.4 2□いいえ(→15へ) 5.8 3□わからない(→15へ) 10.9

↓

9. その場合、あなたが欲しいと考える子どもの数は何人ですか。 n=652

1□1人 3.5 2□2人 64.4 3□3人 27.8 4□4人以上 2.1 5□わからない 2.0

N.A.0.2

10. あなたが子どもに期待する最終学歴を教えてください。 n=652

1□小学校 - 2□中学校 0.3 3□高校 3.2 4□大学 66.9 5□大学院 3.2

6□その他の学校(具体的に) : 1.1

7□状況による 21.8 8□わからない 2.6 N.A.0.9

11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます) n=652

1□はい(→14へ) 83.0 2□いいえ 6.6 3□わからない(→14へ) 10.4

↓

12. ではあなた以外のどなたが主体的に子育てを行うと思いますか最もあてはまるもの1つを選んでください。 n=43

1□配偶者 97.7 2□自分の親 2.3 3□配偶者の親 -

4□その他 -(具体的に:)

13. なぜあなたは主体的に子育てを行おうと思わないのでしょうか。最もあてはまるもの1つを選んでください。 n=43

1□子育てに興味が無いから 2.3

2□他のこと(仕事など)に専念したいから 44.2

3□仕事上の昇進や昇格に影響があると困るから 16.3

4□他の人(例えば配偶者)の仕事だと思ふから 27.9

5□自分は向いていないから 2.3

6□子育てをする習慣がないから 7.0

14. 次にあなたが子どもを欲しい理由についてお聞かせください。 n=652

	そのとお りあては まる	ややあて はまる	ややあて はまらな い	まったく あてはま らない
	1	2	3	4
(1)年を取った時子どもがいなくて寂しい	25.8	52.9	15.3	6.0
(2)子どもがいると生活に変化が生まれる	53.2	42.3	3.5	0.9
(3)年を取った時子どもがいると安心	19.9	51.8	22.4	5.8
(4)血のつながった存在が欲しい	31.0	45.4	16.4	7.2
(5)家庭がにぎやかになる	70.9	26.5	1.8	0.8
(6)子どもを持つことで夫婦の絆が強まる	48.9	42.0	6.6	2.5
(7)配偶者が欲しがらるだろうから	27.9	52.0	15.8	4.3

	そのとお りあては まる	ややあて はまる	ややあて はまらない	まったく あてはま らない	
	1	2	3	4	
(8)子孫を残したい	21.0	41.6	26.1	11.3	
(9)経済的ゆとりができるから	3.1	14.6	58.0	24.4	
(10)友達が子どもを産んだので	1.8	13.8	39.0	45.4	
(11)自分の生活に区切りがつく	7.8	45.6	34.7	12.0	
(12)夫婦関係が安定する	20.6	56.3	17.6	5.5	
(13)2人だけの生活は十分楽しんだ	6.6	33.9	40.5	19.0	
(14)自分の仕事が軌道にのった	15.3	43.9	27.8	13.0	
(15)周囲に勧められた	2.8	14.6	44.3	38.3	
(16)育児に自信が持てるようになった	15.8	45.1	27.3	11.7	N.A.0.2
(17)子どもを育ててみたい	59.4	35.7	4.0	0.9	
(18)子どもが好きだから	62.3	28.8	8.0	0.9	
(19)子育ては生き甲斐になる	53.8	35.6	8.7	1.8	
(20)子育てで自分が成長する	61.7	33.6	4.3	0.5	
(21)配偶者の子どもが欲しい	55.7	33.6	8.6	2.1	
(22)女性として、妊娠・出産を経験したい/ 女性に、妊娠・出産を経験してほしい	34.7	34.0	22.2	8.4	N.A.0.6
(23)子を産み育ててこそ一人前だから	11.3	31.0	41.6	15.5	N.A.0.6
(24)結婚したら子どもを持つのが普通だから	8.3	28.7	39.0	23.9	N.A.0.2
(25)次の世代を作るのは、人としてのつとめだ から	7.8	26.2	41.4	24.4	N.A.0.2
(26)姓やお墓を継ぐ者が必要だから	2.8	13.8	44.3	39.1	
(27)住宅事情が整っている	5.5	30.5	35.9	28.1	
(28)よい保育園があるので	3.1	11.3	43.3	42.3	
(29)親が楽しみにしているので	13.2	47.2	25.9	13.7	
(30)子育てを手伝ってくれる人がいる	7.7	34.8	36.2	21.3	

15. 経済的な心配がなければ、あなたが欲しいと考える子どもの数は変わりますか。

1□はい 29.3 2□いいえ(→17へ) 55.0 3□わからない(→17へ) 15.7

↓

16. その場合、あなたが欲しいと考える子どもの数は何人ですか。 3.30人 n=229

17. 次に大学を卒業させるまでに必要な教育費を政府が負担してくれることになったら、あなたが欲しいと考える子どもの数は変わりますか。

1□はい 24.8 2□いいえ(→19へ) 60.0 3□わからない(→19へ) 15.2

↓

18. その場合、あなたが欲しいと考える子どもの数は何人ですか。 3.79人 n=194

19. 何人までは大きな経済的担にならずに育てることができるとおもいますか。

_____ 2.04人

経済的観点

次に、子どもが大きくなるか成人した後に、どのような形の援助（経済的な援助、その他の現実的な援助）を子どもたちに期待しているかについてお聞かせください。

20. あなたは子どもに対し経済的な援助を期待していますか。

1□はい 11.5 2□いいえ 61.3 3□わからない 27.2

21. あなたは子どもに対し介護などの現実的な援助を期待していますか。

1□はい 23.3 2□いいえ 45.8 3□わからない 30.9

22. あなたが年を取ったとき、子どもからの経済的援助に頼る度合いは大きいと思いますか。 そうでもないと思いますか。 子どもからの経済的援助にはまったく頼らないと思いますか。

1□大きい 7.0

2□そうでもない 51.7

3□まったく頼らない 20.6

4□状況による 16.1→ どのような状況によってそれは変わりますか。 _____

5□わからない 4.3 N.A.0.3

23. 結婚後、親と同居することについて、あなたはどのように考えますか。

1□積極的 7.5 2□消極的 46.4 3□状況による 43.5 4□わからない 2.6

24. 自分自身が働くようになった後に収入の一部を親に渡すことについて、あなたはどのように考えますか。

1□積極的 47.1 2□消極的 9.3 3□状況による 40.7 4□わからない 2.9

25. 両親が年を取ったときに両親を扶養することに関して、あなたはどのように考えますか。

1□積極的 47.7 2□消極的 8.3 3□状況による 42.2 4□わからない 1.8

26. 家事や家業の手伝いをする事に関して、あなたはどのように考えますか。

1□積極的 51.9 2□消極的 9.7 3□状況による 35.9 4□わからない 2.4

27. 大家族とか小家族という言葉がよく使われますが、何人の子どもがいる家族を大家族又は小家族と呼ぶかについては人それぞれに異なっています。

あなたは何人の子どもがいる家庭を小家族だと思えますか。

_____ 1.97人未満

28. あなたは何人の子どもがいる家庭を大家族だと思えますか.

4.56人以上

29. 小家族で育った子どもと大家族で育った子どもの間には一般にある種の違いが存在するという人もいます.

以下のそれぞれの項目に関して、それは大家族の中で育った子どもと小家族の中で育った子どものどちらにあてはまると思えますか.

	小家族 1	大家族 2	わからない 3	
(1)開放的かつ他人にやさしい子ども	4.5	74.4	21.1	
(2)とても頭のよい子ども	53.2	9.8	36.8	N.A.0.1
(3)他の子どもたちに人気のある子ども	4.0	66.2	29.8	
(4)両親と仲の良い子ども	38.9	25.7	35.3	N.A.0.1
(5)わがままな子ども	81.7	5.4	12.8	N.A.0.1
(6)自信のある子ども	37.5	22.9	39.6	
(7)いつも機嫌のよい子ども	12.4	39.3	48.3	

育児休業制度に関する質問

30. あなたは育児休業制度について聞いたことがありますか.

1□聞いたことがある 92.8 2□聞いたことはない 7.2

31. 仮に勤め先に規定がない場合でも、申し出をすれば育児休業ができることを知っていますか.

1□知っている 25.7 2□知らない 74.2 N.A.0.1

32. 妻が専業主婦である場合、また、産休中である場合も、少なくとも子どもが生まれてから8週間までは、男性も育児休業をすることができることを知っていますか.

1□知っている 38.4 2□知らない 61.5 N.A.0.1

33. 育児休業制度には、子どもが一歳になるまでの休業の他、時間外労働の制限、深夜業の制限、勤務時間の短縮等の措置などがあることを知っていますか.

1□知っている 31.3 2□知らない 68.7

34. あなたは将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思えますか.

1□はい(→35へ) 83.2 2□いいえ(→36へ) 16.8

35. 34で「はい」と答えた方にうかがいます。あなたは将来どの育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等)を利用したいですか。 n=651

(1) 育児休業	1□利用したい 86.8	2□利用したくない 12.9	N.A.0.3
(2) 時間外労働の制限	1□利用したい 92.5	2□利用したくない 7.2	N.A.0.3
(3) 深夜業の制限	1□利用したい 93.9	2□利用したくない 5.7	N.A.0.5
(4) 勤務時間の短縮	1□利用したい 82.8	2□利用したくない 16.7	N.A.0.5

→37へお進みください

36. 34で「いいえ」と答えた方にうかがいます。なぜあなたは育児休業制度(育児休業、勤務時間の短

縮等を含む)を利用したいと思わないのですか。最もあてはまる番号を一つお答えください。 n=131

- 1 □子どもを持つつもりがないから 17.6
- 2 □子育てに興味がないから -
- 3 □配偶者が子育てに専念するだろうから 12.2
- 4 □子どもの保育についての手配ができるだろうから 1.5
- 5 □休むと復帰後仕事についていけるか不安だから 12.2
- 6 □仕事が面白いだろうから 10.7
- 7 □同僚に迷惑をかけたくないから 10.7
- 8 □復帰後の処遇に不安があるから 10.7
- 9 □休業すると経済的に苦しいだろうから 9.9
- 10 □職場に育児休業を取得しづらい雰囲気があるだろうから 7.6
- 11 □その他 3.1 N.A.3.8

37. 仮にあなたの職場の男女とも50%以上の人が育児休業制度を取得するならばあなたも取得すると思いますか。

- 1 □はい 90.7
- 2 □いいえ 9.2
- N.A.0.1

38. あなたは出産や育児のしやすさを考慮に入れて就職活動を行いますか(行いましたか)。

- 1 □はい 27.7
- 2 □いいえ 72.3

39. 次のような少子化に関連する政策に対するあなたの評価についてお聞かせください。その政策はあなたが子どもを持つことに対して役に立つと思いますか。

	とても役に立つ	どちらかといえば役に立つ	どちらかといえば役に立たない	まったく役に立たない	
	1	2	3	4	
(1)女性が出産後も育児をしながら働きつづけられる職場作りに関する政策	73.7	23.0	2.4	0.8	N.A.0.1
(2)女性の育児休業(1年以内の休業)を促進させる政策	68.4	28.1	2.7	0.6	N.A.0.1
(3)男性の育児休業(1年以内の休業)を促進させる政策	54.1	34.9	8.7	2.3	
(4)子育て期間における女性の勤務時間の縮減に関する政策	63.0	32.4	3.8	0.8	
(5)子育て期間における男性の勤務時間の縮減に関する政策	46.8	38.4	12.7	1.9	N.A.0.3
(6)子育てしている女性への企業内の協力体制の整備	72.5	23.3	3.3	0.9	
(7)子育てしている男性への企業内の協力体制の整備	55.2	34.0	8.1	2.6	N.A.0.1
(8)妊娠・出産や育児休業取得を理由とする不利益取り扱いや嫌がらせの防止に関する政策	70.6	23.0	5.8	0.6	
(9)育児休業中の所得の保障	79.3	16.6	3.2	0.8	N.A.0.1
(10)出産・育児による休業・退職後の職場復帰あるいは再雇用の支援	76.9	19.3	3.1	0.6	N.A.0.1
(11)ライフスタイルに応じた多様な働き方を支援する政策	62.4	30.6	6.4	0.6	
(12)保育サービスの充実	72.6	22.4	4.3	0.6	

本調査について、また、子どもに対する感想などご意見がございましたらお聞かせください。



私どもの質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。いただいた回答は我々の研究プロジェクトを進めていく上で非常に役立つものと思います。ご協力まことにありがとうございました。

回収場所は1階学部学科掲示板の前(119号室の前)です。

回収時間は9:00~16:30です。

よろしくおねがいいたします。

PART II

平成 16 年度インタビュー調査編

既婚男性の子ども・子育てに対する意識

1. 問題

少子化が社会問題となって久しいが、これまでは女性にその原因を求める考え方が主流であった。少子化をテーマとした研究でも、女性のみを対象としているものがほとんどであり、男性を当事者としてとらえる見方は一般的ではない。これは、妊娠・出産という身体的負担を負うのが女性であること、また子どもが生まれた後の主たる養育者が女性であることが多い、という背景によるものであると考えられる。

しかし、カップルが子どもを産み・育てるという決定をする際に、女性だけではなくもう一方の当事者である男性も、何らかの関与をしているはずである。その男性の関与が直接的であるのか、間接的であるのか、またどの程度の影響力を持っているのかを明らかにしなければ、本当に有効な少子化対策を検討することはむずかしいのではないだろうか。

本研究では、カップルが子どもを持つことを決定する際の、男性の関与について明らかにし、カップルが子どもを持つ動機づけについての仮説的モデルを構築するため、男性の子どもについての意識を分析することを目的とした。

2. 目的

子どもを産み育てる年代の既婚男性が、子どもを持つことについてどのような意識を持っているのかについてインタビュー調査を行い、カップルが子どもを持つ決定に男性がどのように関与しているかについて探索的に検討する。

3. 方法

3-1. 調査対象者

子どもを産み育てる年代の20代から30代の既婚男性。子どものいる人18名、子どものいない人14名の計32名。結婚してすぐの場合は、子どもを持つという可能性が低いと考えられるため、調査対象者は結婚して1年以上たっていることを条件とした。

3-2. 手続き

既婚男性を対象に「子どもを持つことに関する男性の意識」についての反構造

化の面接調査を行った。調査協力者は、首都圏と長野県に住む既婚男性 32 名であった。協力者は本研究者の知人や、知人から紹介を受けた人であった。

インタビュー調査は、本研究者（高崎）か主任研究者（辻）がインタビュアーとなり、1 対 1 の個別面接、あるいはインフォーマント同士が知り合いである場合、1 対 2、3 名の集団面接方式で行った。

インタビューに先立ち、調査の目的と方法についてのインフォームドコンセントを行い、協力者の同意を得た。その後インタビューを IC レコーダーで記録した。

まず、協力者の年齢、最終学歴、職業、同居家族、妻の年齢、子どもの数、結婚継続年数、妻の職業、本人のきょうだい数、など基本的情報についてたずねた。

次に、子どもを持つことに関して質問をし、オープンエンドの形式で聞き取りを行った。質問したトピックは、「欲しい子どもの数とその理由」「子育て観・教育観」「パートナーとの話し合い」「家事・育児への関与（意欲）」「子育て・子どもを持つことの負担感」「育児休業制度の利用」「子育てから得られること」などであった。

1 回のインタビューの所要時間は約 1 時間から 2 時間半であった。

3-3. 調査時期

調査時期は、2004 年 2 月から 2005 年 2 月の 1 年間であった。

4. 結果

4-1. 調査協力者の属性

調査協力者の属性の概要を表2に示した。個々の協力者の詳細な情報については、表1を参照のこと。

調査協力者の年齢は、25歳から39歳であり、子どもを産み育てる世代である。子どものいるグループ（以下、子ありG）と子どものいないグループ（以下、子なしG）を比較すると、子なしグループの方が本人の年齢、妻の年齢、結婚継続年数とも長かった。ただし、子なしグループの平均結婚継続年数は標準偏差が大きく、結婚して間もない人で今後子どもを持つ可能性が高いと考えられる人と、結婚後9年以上経ち今後子どもを持つ可能性が低いと考えられる人の2つのタイプが混在していた。

また、子ありGの現在の子どもの数の平均は、1.2人であり、結婚しているカップルが最終的に持つ子どもの数の全国平均（2.2人）と比較するとかなり低い。これは第一子が1歳未満という人が5名おり、子どもを産み終わった世代ではない人を調査の対象としていたためである。また、実際に現在の子どもの数と、理想の子どもの数が一致している人は18名中一人だけ（現在子ども2人で「2人で充分」と発言している、子あり16）であり、他の協力者は今以上の子どもを持ちたいという希望を持っていた。

一方、子なしGでは、はっきりと子どもが欲しくないと回答した人は1人（子なし1）であり、他の協力者は子どもを持つことへの積極性にばらつきはあるが、子どもを持つことを希望している人が多かった。

表2. 調査協力者の属性の概要

	子あり	子なし
協力者人数	18	14
本人の年齢	30.8 (3.3)	33.6 (4.0)
妻の年齢	30.0 (4.3)	32.1 (4.8)
現在の子どもの数	1.2	—
結婚継続年数	4.4 (2.7)	4.7 (4.5)

※妻の年齢と結婚継続年数は不明者は除いた平均

※()内はSD

調査協力者の職業は、両グループとも会社員・公務員が多く（子ありGは計9名、子なしGは計11名）、子ありGは子なしGよりも自営業が多かった（子ありGは4名、子なしGは1名）。また、子ありGのうちひとり、専業主夫（表中ではその他に分類）であった。しかし、職業と子どもがいる／いないに大きな関連はないと考えられた。

表3. 調査協力者の職業

	子あり	子なし
会社員	5	5
公務員	4	6
自営業	4	1
教員	1	0
飲食業	2	1
介護職	1	0
学生	0	0
その他	1	1
計	18	14

(人)

調査協力者の最終学歴は、両グループとも大学卒業が多く（子ありGは6名、子なしGは7名）、ついで高校卒業が多かった（子ありGは6名、ただし大学中退2名を含む。子なしGは4名）。子ありGのみ大学院卒業者が3名いた。ただし、最終学歴と子どもがいる／いないは関連していないと考えられた。

表4. 調査協力者の最終学歴

	子あり	子なし
大学院	3	0
大学	6	7
専門学校・短大卒	2	3
高校	6	4
大学在学中	0	0
計	17	14

(人)